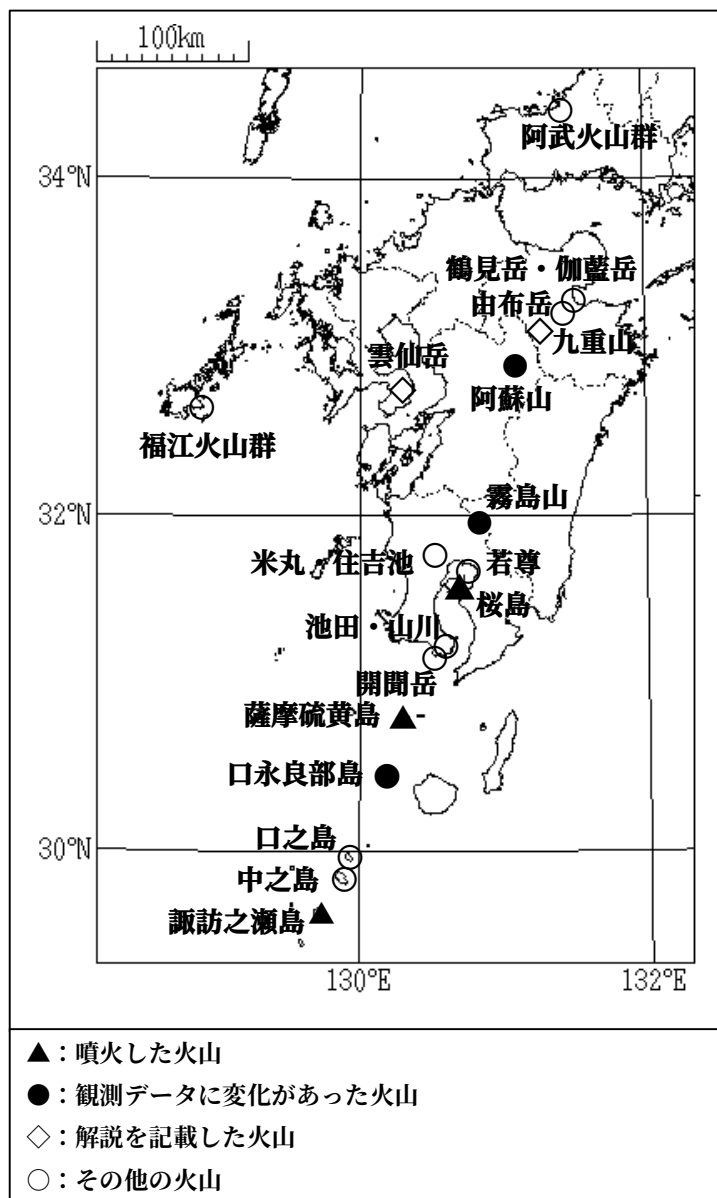


九州地方の火山活動解説資料(平成16年の活動)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

山口・九州地方の火山



平成 16 年の月別火山活動状況

火 山 名			平成16年 (2004年)											
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
阿武火	山	群												
鵜見岳・御藍岳														
由布														
九重														
阿蘇	記	号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	レ	ベル	②③	③②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
雲仙	山	号												
	レ	ベル	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
福江火	山	群												
霧島		山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
米丸	・	住吉池												
若		尊												
桜	記	号	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			▲		
	レ	ベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	
池田	・	山川												
開	開	岳												
薩摩	硫	黄	●	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲			
口永	良	部	●	●	●	●	●	●	●					
口		島												
中	之	島												
聖	之	島												
諏訪	之	湖	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲		

概況

◇：九重山

火山活動は落ち着いた状態が続いています。

●：阿蘇山（レベル2⇒3⇒2）

1月14日に規模の大きな土砂噴出が発生しました。噴煙高度は800mで、15日の現地調査では中岳第一火口から東南東約8km付近まで微量の降灰を確認しました。

火山性連続微動は、3～5月にかけて断続的に発生し、5月13日から9月29日まで連続して発生しました。また、10～11月にも時々発生しました。孤立型微動は1～2月にかけて増加し、3月以降は減少しましたが、年間を通し

てやや多い状態が続きました。火山性地震は10月以降増加し、やや多くなりました。

中岳第一火口の南側火口壁下の温度は、4月(446℃)をピークに次第に低下しました。湯だまりの表面温度は60～80℃前後で推移し、比較的高い状態が続きました。また、湯だまりの量は、3～9月にかけて時々3割まで減少するなど増減を繰り返しましたが、10月下旬以降は約8割の多い状態が続いています。湯だまり内では、9月まで小規模な土砂噴出が観測されましたが、10月以降、噴湯現象はあるものの土砂噴出は観測されていません。

火山活動度レベルは、1月14日にレベル2（やや活発な火山活動）からレベル3（小規模噴火の可能性）に変更しました。その後、2月13日にレベル2に変更し、12月までレベル2で経過しました。

◇：雲仙岳（レベル 1）

火山活動は落ち着いた状態が続いています。

火山活動度レベルは年間を通して、1（静穏な火山活動）でした。

●：霧島山

2003 年 12 月中旬から活発となった御鉢の火山活動は、時折噴気が火口縁を越えて観測されるなど、年間を通してやや活発な状況で推移しました。1 月 3 日には、継続時間 55 分の火山性微動が発生しました。また、3 月 26 日には、継続時間が最長となる 254 分の振幅の大きい火山性微動が発生し、噴気も火口縁上 800m まで上がりました。微動発生後には、一時的に火山性地震が多発しました。11 月 21 日にも、継続時間 5 分の振幅のやや大きな火山性微動が発生し、微動発生後に火山性地震がやや増加しました。

新燃岳付近では火山性微動は発生しませんでした。火山性地震も概ね少ない状態で経過しましたが、6 月下旬から 7 月上旬にかけて微小な地震がやや増加しました。新燃岳の火山活動は、全般に静穏な状態が続いています。

▲：桜島（レベル 2）

桜島の年間の噴火回数は 23 回、そのうち爆発は 11 回で、桜島としては比較的静穏な活動で経過しました。年間の爆発回数は最近 10 年ではもっとも少なく、山頂噴火を始めた 1955 年（昭和 30 年）以降では、1955 年（6 回）、1971 年（昭和 46 年、10 回）に次ぐ少ない 1 年でした。噴煙の最高高度は 4 月 17 日の噴火の火口縁上 1,700m でした。

火山性地震、火山性微動は総じて少ないなかで、A 型地震はやや多い状態で経過しました。

火山活動度レベルは年間を通して、2（比較的静穏な噴火活動）でした。

▲：薩摩硫黄島

3 月、4 月、6 月、8～10 月に時々噴火が発生し、火山活動はやや活発でした。島内の集落でも時々降灰がありました。有色噴煙の最高高度は火口上 700m でした。

火山性地震、火山性微動は比較的少ない状態で経過しました。

●：口永良部島

火山性地震は 1～5 月にかけてやや多く、年の後半は少なくなりました。また、振幅の小さな火山性微動を時々観測するなど、年間を通し、やや活発な火山活動が続きました。

▲：諏訪之瀬島

噴火や爆発的噴火を繰り返し、爆発音を伴うなどやや活発な状態が続きました。噴火は 8 月を除いて毎月発生しました。特に 5 月 1～2 日に 39 回、6 月 7～9 日に 97 回の爆発的噴火が発生するなど、火山活動は一時活発になりました。噴煙の最高高度は、6 月 8 日、6 月 10 日の火口上 1,200m でした。

火山性地震は年間を通してやや少ない状態が続きました。また、火山性微動が度々発生し、継続時間の長い微動は数日間続きました。